

優秀賞

朝と同じ笑顔で

明治学園小学校 4年 能美 にな

「いってきまーす！」

大きな声で元気いっぱいと言っているのは新一年生だ。真新しいランドセルを背負い、満面の笑顔。何度もふり返り、お母さん達にちぎれそうなほど手をふっている。道の先に友達を見つけて、うれしそうにかけよろうとする人もいる。人数が増えてくると、歩きながら完全に『おだんご状態』になり、みんなで楽しそうにおしゃべりしている。

「困ったね。その時になはどうしてたの？」

家に帰ってこの話をすると母は言った。はっとした。私はただ、ほほえましく思っただけだったのだ。

四年前の春。母と通学路を歩いた。信号のない横断歩道でも立ち止まり左右を確認する。駐車場の出入り口にも要注意。初めて知る事ばかりだった。まずはルールを知ることが大切だと分かったのは彼らと同じ一年生の時だ。

小学生の交通事故の多くは登下校中に起きている。学校に行きたいとはやる心や友達と一緒にの楽しさは、ふだんはできているはずの『ルールを守る気持ち』を少しだけ、にぶらせる。そしてその『少しだけ』が、取り返しのつかないことにつながることもあるのだ。

次の日。一年生の手を取り、歩道をふさがないように歩く。よそ見はしない。走らない。横断歩道ではみんなで左右を確認。もちろん登校時だけではない。帰り道にも油断は禁物だ。家までもう少し。信号のない横断歩道の手前で思わず駆け出しそうになった一年生の手をとっさににぎり、一緒に立ち止まる。

「右みて。左みて。よし、わたろう！」

私は四年生。先輩として交通ルールを守る姿を後輩たちに見せていきたい。そして自分だけでなく、みんなで楽しく安全に登下校する習慣を身につけたい。

「行ってきます」を言った朝と同じ笑顔で、みんなで元気に「ただいま」を言えるように。